対面授業

国語科教育法Ⅱ
Methodology of Teaching Japanese Ⅱ

SANO Masatoshi
佐野　正俊

科目ナンバリング：UTL-2-201-17

■授業の目的及び到達目標
国語科教育における国語単元学習について理解し、国語単元学習を作り、模擬授業をすることによって、国語科の教員として必要な知識と国語科の授業の実践的な能力を身につけることを授業の目的と到達目標とする。

■授業計画
1 国語単元学習を作る①
　国語単元学習の概要を、情報機器及び教材の活用に触れながら説明する。
2 国語単元学習を作る②
　国語単元学習の指導例について、情報機器及び教材の活用に触れながら説明する。
3 国語単元学習を作る③
　国語単元学習を作るために、学習指導案を書く。
4 国語単元学習の実際①
　国語単元学習（「話すこと・聞くこと」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
5 国語単元学習の実際②
　国語単元学習（「話すこと・聞くこと」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
6 国語単元学習の実際③
　国語単元学習（「話すこと・聞くこと」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
7 国語単元学習の実際④
　国語単元学習（「書くこと」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
8 国語単元学習の実際⑤
　国語単元学習（「書くこと」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
9 国語単元学習の実際⑥
　国語単元学習（「書くこと」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
10 国語単元学習の実際⑦
　国語単元学習（「読むこと」現代文分野）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
11 国語単元学習の実際⑧
　国語単元学習（「読むこと」古文分野）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
12 国語単元学習の実際⑨
　国語単元学習（「読むこと」漢文分野）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
13 まとめとフィードバック
　授業内容のまとめとフィードバックを行う。国語科教育法IIにおける学びを振り返り、国語科教育についての理解を深める。

■授業の方法
半期の授業の序盤では国語単元学習の理論と実践について学ぶ。中盤以降は国語単元学習（主に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）を各自で作り、演習形式で模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。相互批評に積極的に参加すること。

■予習・復習
予習：国語単元学習の題材となっている教材の予習に取り組むこと。国語単元学習の模擬授業のための教材研究を深めること。
復習：模擬授業での相互批評を受けて、改善すべき点を確認すること。模擬授業で指摘された改善点を踏まえて、次の模擬授業に臨むこと。
模擬授業を担当する場合は、教材研究に基づく学習指導案が完成するまでの準備（予習）の時間が必要である。その他の場合は予習・復習として、それぞれに 1 時間程度かけることを想定している。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
平常点（発表、質疑応答、模擬授業等）100％で評価する。試験やレポート提出は行わない。

■教科書・参考書
教科書
文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』（東洋館出版社・2018）
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　国語編』（東洋館出版社・2019）
参考書
日本国語教育学会編『豊かな言語活動が拓く　国語単元学習の創造VI　中学校編』（東洋館出版社・2010）
日本国語教育学会編『豊かな言語活動が拓く　国語単元学習の創造VII　高等学校編』（東洋館出版社・2010）

■関連する科目
「国語科教育法I」・国際日本語学科の専門科目全般・教職課程の科目全般

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）
担当教員は高等学校国語科教諭として 19 年の実務経験を有する。